

2024年 1月

杵築市立図書館



# 図書館だより

本館 Tel : 0978-62-436 山香図書室 Tel:0977-75-1055 大田図書室 Tel : 0978-52-3111

## 新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。昨年も杵築市立図書館をご利用いただきありがとうございました。2024年の抱負はお決まりでしょうか。今年の干支の辰は「ふるう」の振に通じ草木が大きく伸びていく若々しさ、明るくて活動的なエネルギーを表すそうです。当館では今年も1月から様々なイベントをご用意しております。新しい出会いはきっと皆様方にもエネルギーのもとになるとと思います。心と体の健康を第一に、皆様方にとって健やかな一年になりますようお祈り申し上げます。

本年も杵築市立図書館をよろしくお願いいたします。

## 受賞者決定！

### 麻田剛立 キャラクター & エッセイ

7月～10月まで募集をおこなってございました『麻田剛立 キャラクター募集』および『麻田剛立エッセイ募集』の受賞者が決定しました。キャラクターに関しましては来館者投票へご協力いただきありがとうございます。これを機に杵築出身の偉人『麻田剛立』への興味関心が深まっていれば幸いです。受賞者の皆様、おめでとうございます！

今後、HPでも受賞者および作品を掲載する予定ですのでご覧ください。

## 『麻田剛立エッセイ』入賞者

- 最優秀賞 (剛立部門) 細江 隆一(岐阜県)
- 優秀賞 (剛立部門) 木俣 肇(大阪府)
- 優秀賞 (宇宙部門) 木野田 博彦(埼玉県)
- 優秀賞 (宇宙部門) 衛藤 梓乃(大分県)

## 『麻田剛立キャラクター』入賞者

### 最優秀賞

山本 ひまり(滋賀県)



### 優秀賞

宮田 敬介(大分県)



佐藤 蓮花(兵庫県)



### 市長賞

是永 美穂(愛知県)



### 杵築ど〜んとテレビ賞

新田 憲明(香川県)



### 横岳自然公園賞

衛藤 梓乃(大分県)



エッセイ募集の最優秀賞作品を掲載しています。

受賞作品は図書館だよりやゴーリュー塾などの様々なシーンに活用させていただきます。

裏面へ！

『もっと知ろう！麻田剛立を！』

細江隆一（岐阜県）

正直、「麻田剛立」という名前は、このエッセイ募集で初めて知った。周囲に聞いてみたが、「だれ、それ」という反応ばかり。メジャーではなく、マイナーであるのは間違いない。

だが、剛立の業績をネットで調べてみてびっくりした。これだけ膨大な業績をあげている人物だと知ったからだ。しかも、月のクレーターに「アサダ・クレーター」があるという。それも彼の業績を鑑みての結果らしい。すごい人物である。

改めて麻田剛立の生い立ちをネットで確認してみた。幼い頃から天文学に目覚め、それ一筋で研究を重ねてきた人物である。しかも、一流の人たちとも交流があり、それをバネに天体の分野に挑んでいる。彼こそ過去の時代の「チャレンジャー」であり、天体の分野に業績を残した「スーパー博士」であると感じた。そして、今まで剛立を知らなかった自分を恥じた私である。

麻田剛立の生き方から学ぶべき点は三点あると感じている。第一は、「好きこそもの上手なれ」ということわざを地で行く生き方。剛立は五歳で太陽と影が連動していることを発見した。それは、天体が好きで好きでたまらなかつたからだ。だから、毎日空を仰いで天体ばかり観ていた。結果、太陽と影の連動に気が付いたので。

五歳と言えば、私は保育園児で、母に言わせれば「悪童」だった。先生に反抗して保育園を飛び出したり、友だちをからかって叱られたり、そのたびに父母が保育園に呼ばれたり。我が儘のし放題だったらしい。自分では覚えていないのだが、母が言うのだから間違いないだろう。

私が好き勝手に暴れている五歳の年代に、剛立は空を眺めて天体の規則を発見していたのだ。そんな五歳児はどこを探してもいない。これは剛立が「天体が好き」であり、そこから天体に夢中になったという事実があるからこそだ。まさに「好きこそもの上手なれ」である。

第二は、一流の人たちとの交流。剛立は人との出逢いに恵まれていた。剛立に関わった人たちの名前を挙げていくと、三浦梅園、松平定信、高橋至時、伊能忠敬等々。これだけでもびっくりする。剛立の良さは、こうした人脈を大事にして生きたことだ。武田信玄が人を大切にしたように、剛立もまた、自分と関わってくる人

たちを大切にしたから、その見返りとして様々な場面で救ってもらったことができた。

剛立は反射望遠鏡を手に入れて、天体観測を行っているが、これもお金を出してくれた弟子や友人たちがいたからこそ叶った事実である。剛立自身はお金持ちではなかったもので、こうした人たちとの関わりが、夢の実現に生きたのである。剛立が義理や人情に厚い人物でなければ、こうした助けは無かったに違いない。

第三は、彼の探求心である。太陽と影が連動していることを知り、それを確かめようとした探求心。日食の正確な日時を知りたくて、天空を眺めて観察した探求心。日本史上で初めての「月面観測図」を描くために、反射望遠鏡を手に入れて、人生を賭けて作った探求心。どれをとっても私には真似できないことばかりである。

しかも彼は、自分だけで研究を終わらせないように弟子をたくさん作り、世に送り出している。伊能忠敬が日本地図を作製できたのは、剛立の描いた「月面観測図」があったからだ。これは伊能が孫弟子であることに関わりから発生した絆である。剛立は自分の好きな天体について究めるだけでなく、それを後世に残して、世のため、人のために活かすことを考えていたので。

これは、一般に言う「学者」とは大きく違う。学者は自分の好きなことを探求するだけで満足して終わりがちだが、剛立は探求し、後世に活かすことまで考えていたのだから。事実、剛立が描いた「月面観測図」は見事なものだという。人生を天体に賭けた男として、剛立は実に立派である。

これだけの業績を残した麻田剛立がさほど知られていない事実は、実に惜しいと思う。日本の未来に光を与えるような業績なのに、それを知られていない上に、名前さえ忘れられている。今、世界は宇宙ステーションの建設など、開発を宇宙規模に拡大している。剛立が残した業績を、ここに何とか活かさないだろうか。ジャクサが中心となって麻田剛立をPRしたら、もっと日本全国の子ども達が注目するのではないか。

いまやネットの時代。子ども達が「麻田剛立」を検索するのは容易なことである。まずは子ども達に「麻田剛立」という名前を知ってもらい、検索してもらいたい。そうすればきっと「憧れの人」の一人に剛立が加わるはずだから。